

学生服のトンボ「スマホ預かりバッグ」

教員の管理負担を軽減

女満別高が道内初導入

【網走発】女満別高校(田邊康弘校長)は、六月中旬から学生服メーカーの㈱トンボ(本社・岡山)が開発した「スマホ預かりバッグ」を道内の学校で初めて導入した。生徒たちは朝の



生徒は朝のホームルーム時にスマホを預ける

ホームルームで自分のスマートフォンを預かりバッグに収納。帰りのホームルームで返却される。同校では、預かったスマホを安心して管理することができると、メリットを話している。

スマホ預かりバッグのサイズは縦が四十二センチ、横が五十五センチ。ビジネスバッグよりも一回りほど大きく、内側に並んだクッションのフラップをめくると、スマホを一台ずつ収納でき

る。同校では、全校生徒約五十人のほとんどがスマホを所有しているが、校内でのスマホ使用を禁止。本年度からは、朝のホームルームから帰りのホームルームまで、生徒のスマホを預かっている。四月からの二カ月間は、スマホ

ホを茶封筒に入れ、ナップザックにまとめて金庫内で保管していた。その際、ナップザック内でスマホがぶつかり合い、傷ついてしまうことや、回収や返却の際に落として破損させてしまう可能性があるなど、教員らはスマホの管理で頭を悩ませていた。

木戸教諭は、預かりバッグを導入したメリットについて「預かっている際に破損させてしまう心配もなく、安心して管理することができる。また、保護者に対しても、大切に保管していることが伝わるのではないかと話していた。

そこで、同校の木戸義典教諭が、Webページで見つけたスマホ預かりバッグの導入を田邊校長に提案。預かったスマホを安全に管理できることや、生徒が直接スマホを出し入れできることから、六月中旬にスマホ四十台を収納できる預かりバッグを三つ導入した。

現在、生徒が朝のホームルームの際に各自のスマホを預かりバッグに収納。担任の教諭がバッグを帰りのホームルームまで、金庫内で保管している。

問い合わせは、北海道トンボ(電話〇一一七四二二五五二)まで。